

種々

岩木山虹農園便り 56号

発行元 岩木山虹農園
弘前市葛原字大柳 171-1
TEL 090・3757・8174
Email oiwaki2021@outlook.jp
文責 前田 尚人

日の出・日の入り、どちらも五時半頃。つまり秋分の季節になりました。津軽では最低気温が一五℃前後になり、暑い夏の記憶を忘れさせます。

白菜の葉についた「オンブバッタ」を見ながら虫も植物も、来年再び生まれ変わるための、種を残す季節になったなあと感じます。春から夏にかけて植物の成長に合わせて無我夢中で活動していました。胡瓜や南瓜、オクラやトマト等の種採りをしながら、ようやく振り返る時間を味わっています。



第八回 配達

枝豆

茶豆と毛豆(青大豆)を用意しました。筆者は日本酒をちびちびやりながら食べるのがしあわせです。

茶豆

旨味と甘さ

毛豆

甘さと香り



茄子

茄子は最終回です。今年の茄子はいかがでしたか。日照りが続いて、どうなることかと思った時もありましたが、なんとかお届けすることができました。

四月しろ菜

これはスーパーなどには見かけない、珍し部類の葉物野菜です。個人的に好きなので自家採種を続けました。味を確かめてからいろいろとご活用ください。



スプラミートマト

前回も少しお届けしましたが、自家採種十四年目のトマトです。トマトの酸味と甘さ、そして旨味がはっきり感じられるのが自然栽培のトマトです。

和梨(長十郎梨)

実がカリッとおいしいのに水分豊富です。酸味と甘さのバランスが個人的には好きです。ただ、収穫が四五日早かったため糖度が少し足りず申し訳ありません。



小松菜・ピッコロシントウ

秋野菜・現在の状況

大根、白菜、人参が順調に育っています。白菜が結球してくるかどうか。そこだけ心配です。



白菜



大根



人参

第九回配達予定 十月十日(金)

葉物類 さつまいも りんご等

病気や障害とつきあう

どんな人でも生きていけば怪我や病気は必ずやつてきます。

私事ですが、十歳頃までの幼少期は病弱のため毎週のように通院。三〇歳前後に二度の腰の手術。五〇歳台に入ってから右耳が聞こえなくなりましたが、今のところ、以上で済んでいることは、幸運でしかありません。

時折夕方に、自宅の前を散歩する八十歳近い祖父に会います。片足が動かず、杖を突きながら一歩、一歩ゆっくりと歩きます。少し会話しますが、いつも軽やかな声で返してくれます。ただそれだけで胸底からじわっと感動がのぼってきます。

今は寛解されていますが、十一年前に癌のために胃の全摘出手術をされた木村秋則さん。お見舞いに行った病室の中で、笑っていました。人間の命とすさまじい心の強さに圧倒された記憶が、今のわたしを支え続けています。

身体が故障を起こしたり、心が傷ついたりしながら、それを受け入れながらさわやかに日々を送る方々をたくさん見えてきました。尊敬と畏敬の思いだけでなく、そういう方々に励まされている自分に気づきます。

野菜などの病気や虫食い、雑草等は、土を本来の状態に戻そうとする自然界の作用です。人の体も「自然」そのもの。病気や障害を、受け入れながら生きることで、人として成長するためのきっかけにできたらと思います。

採種と保存

雑草や病気、天候不順に負けない野菜になると信じて、自家採種で野菜を育てています。そして毎年同じ住所に植えます。種そのものの成長を促します。今回お配りしたステラミニトマトからも種を採種することができます。

ステラミニトマトの例

Iより熟したトマトを選んで、つぶして種の部分を出します。



IIトマトの種の部分を袋に入れて、少し水を足し、三日置きます。すると発酵して、雑菌の消毒ができます。また種を包むジェル状の膜が外れます。



III水洗いしてザルにあけて乾かし、さらに新聞紙に敷いて陰干しします。よく乾いたら瓶か封筒に入れ保存します。瓶の場合は乾燥も入れておきます。



ステラミニトマトの種